

名城大学自然災害リスク軽減研究センター
特別講演会

「風化と崩壊：歴史遺産や斜面災害を例に」

主催：名城大学自然災害リスク軽減研究センター

後援：公益社団法人 地盤工学会中部支部

日時：平成28年12月12日(月), 16:30~18:00

場所：名城大学 天白キャンパス タワー75 15階 レセプションホール

地図：<http://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/tenpaku/>

講師：藤井 幸泰氏(公益財団法人 深田地質研究所 主任研究員, 理学博士・工学博士)

講演概要：

岩石や土は地表付近での風化や劣化作用によって脆弱化し、最終的には崩壊に至ることが多い。ユネスコによるアジナ・テパ仏教遺跡の修復保存活動における土建造物の劣化メカニズム、地盤工学会関東支部による横須賀ドライドックの健全性評価における石造建造物の劣化について紹介する。また2年前の広島土砂災害は豪雨が引き金となった災害であるが、地質・地盤条件や過去の被災歴についても紹介したい。



アジナ・テパ仏教遺跡(修復前)



横須賀製鉄所第1号ドライドック



広島土砂災害(国土地理院)

申込み方法：参加ご希望の方は、①氏名 ②所属 ③連絡先を下記メールまで
お知らせください。

Email: cuiying@meijo-u.ac.jp

参加費無料